

にちぎん

2014 NO.39

秋



インタビュー 扉を開く

ヤマザキマリ 漫画家

「オリジナルな辞書」をもて—— バーチャルな世界を脱し、自ら体験する勇気を

地域の底力

今治市 愛媛県

自立の水軍魂を今に受継ぎ共存を支える

対談 守・破・創

ハンス・デイトマール・シュヴァイスグート 駐日EU大使(取材当時)

中曾 宏 日本銀行副総裁

危機の中から未来を創る

エッセイ “おかね”を語る

沖方 丁 作家 お金の重さ

お金というものを、生まれて初めてずっしりと実感したのは十四歳のときのことだ。

私は父の仕事の都合で海外にいた。その父が癌を患った。そのため、学校の就学期間が残っていた私を他の日本人の家に預け、父母と幼い妹だけ急いで帰国することになった。

その際、父母が私に現地のお金を渡し、大事に使うようにと告げた。その国では子供の私ができる銀行口座を開設することができなかった。だから現金での手渡しだった。本来、十四歳が持つべきではない、かなりの額だった。

異国の地で一人、私はそのお金を「抱いて」暮らした。さすがに懐に入れて持ち歩きはせず、居候先でお借りした机の、鍵付きの引き出しを銀行代わりにした。しかし実感としては常にそのお金を胸に抱いていた。少しでも減ることを抑え、父母に迷惑をかけまいとしながら、心寂しい日々を送った。

十六歳で父が亡くなったときは、すでに私も帰国していた。母は預金を整理し、またもや私にお金を渡した。高校を出るまでの学費と生活費をまとめて子供自身に管理させたのである。むろん異国の地



絵・江口修平

お金の重さ

冲方 丁

ではないので、そのときは子供の私にも銀行口座があった。だが十四歳のとき以上に、そのお金は、ずっしりとした実感を与えてくれた。

いったい何がそんなにずっしり重かったのか。今振り返って、それは信頼の重みであったのだと思う。父母が子供の代わりに支払ってくれるお金ではない。父母から託されたお金だった。自由に使っている。だがそれしかない。なくなればそれまで。まるでお金を通して自分を試されているようだった。父亡き後、母が私を信頼して、託してくれたお金。自分のものであって自分のものではない、社会にあって自分を試みるお金だった。

時は過ぎ、当時とは比べものにならない額を持つようになったが、お金は相変わらず私にとってずっしりしている。そして今は、私が養うべき子供たちがいる。今度は私が子供らに、お金と一緒に信頼の重みを教えねばならない。その責任もまたずっしりと重たい。

そうした重みを感じられなくなったとき、私はお金と一緒に、自分自身への信頼も失うだろう。それが私のお金への実感である。

うぶかた・とう●1977年岐阜県生まれ。96年『黒い季節』でスニーカー大賞金賞を受賞してデビュー。2003年『マルドゥック・スクランブル』で第24回日本SF大賞受賞。09年、『天地明察』で第31回吉川英治文学新人賞、第7回本屋大賞など5冠を達成。12年『光圀伝』で第3回山田風太郎賞を受賞。最新作は『はなとゆめ』。





2 エッセイ／“おかね”を語る
沖方丁 作家 お金の重さ

4 インタビュー／扉を開く
ヤマザキマリ 漫画家
「オリジナルな辞書」をもて——バーチャルな世界を脱し、自ら体験する勇気を



9 地域の底力——愛媛県今治市
自立の水軍魂を
今に受継ぎ共存を支える



16 対談／守・破・創
ハンス・デイトマール・シュヴァイスグート 駐HEU大使(取材当時)
中曾 宏 日本銀行副総裁
危機の中から未来を創る

20 日本銀行の支店建物 [9]
日本銀行松山支店旧店舗 日本銀行文書局技師 中村茂樹

24 FOCUS → BOJ 12 日本銀行金融機構局「金融高度化センター」の仕事
日本の金融仲介機能の向上を支える

28 日本銀行のレポートから
「地域経済報告」(さくらレポート) —2014年7月—

32 トピックス
企業向けサービス価格指数・2010年基準指数の公表を開始(ほか)



35 AIR MAIL from Germany
旅行好きなドイツ人

表紙のことば

日本銀行岡山支店は、日本銀行の第一五番目の支店として、大正十一年(一九二二)四月に開設されました。当初の店舗は、後楽園にほど近いかつての岡山城二の丸内に建設され、今も市民から「ルネスホール」の愛称で親しまれながら、幅広い多目的ホールとして活用されています。

今回表紙に掲載した現店舗は、昭和六十二年(一九八七)、旧店舗から北へ約二〇〇mの所に二代目として建設されました。地下一階、地上三階建ての建物は、平成元年(一九八九)に、地域の魅力あるまちづくりに寄与したとして「第一回おかやま景観賞(建築物・工作物部門)」を受賞しました。

目の前の通りには、市民の足である路面電車が走ります。中でも、「MOMO」の愛称を持つ9200型の車両デザインは、豪華クルーズトレイン「なつ星」などのデザインでも知られる岡山県出身の水戸岡鋭治氏により、座席や床材などに木などの自然素材をふんだんに使っているのが特徴です。岡山支店が、ルネスホール、MOMOと共に、いつまでも変わらず市民に親しまれていくことを願っています。



漫画家

ヤマザキマリ

Mari Yamazaki

古代ローマの浴場設計技師ルシウスが現代日本にタイムスリップする——
奇想天外な発想とリアルな描写で爆発的なヒットとなり、映画化もされた漫画『テルマエ・ロマエ』の作者・ヤマザキマリ氏。一七歳で日本を飛び出した彼女が見た、今の日本人の姿とは？ そして、古代ローマ皇帝ハドリアヌスや現在執筆中の『ステイプ・ジヨブズ』ら、時代からはみ出した人物の魅力とは？ バーチャルな世界を脱し、自ら体験する勇気の大切さを説く。



「オリジナルな辞書」をもて

バーチャルな世界を脱し、自ら体験する勇気を

おおらかだった古代ローマ人

——ヤマザキさんの作品『テルマエ・ロマエ』は、古代ローマの人々の魅力がとてもよく伝わってきます。この作品を描き始めたきっかけを教えてください。

ヤマザキ 古代ローマは、政治文化等、様々な面で現代に大きな影響を与えていて、そうした本も多く出ていますが、その中で古代ローマの人々に着目して、その魅力を私なりに描けないかな、という思いがありました。

もうひとつ、本音を言えば、私は無類の銭湯好きなのです(笑)。小さい頃、内風呂があったのです

が、祖父母に連れられて銭湯に行くのが大好きでした。銭湯では祖母が友人たちと楽しげにおしゃべりしたり囲碁を打ったり、交流しているのを見ているのもうれしかったです。だから、大の銭湯好きでありながら、長年外国生活でシャワーしか使えなかった私にとって、古代ローマの浴場跡は、見るたびに「この浴場が使えたら私も入れたのに」との思いに駆られる存在だったのです。いわば、

生活の枯渇感から生まれたのがあの作品といっても良いでしょうね。

——日本と古代ローマのお風呂

文化はよく似ていますね。

ヤマザキ 古代ローマ人にとって

お風呂は「くつろぎの場所」、日本の銭湯文化と同じです。古代ローマ人にとっても浴場は社交の場でした。

ちなみに、古代ローマ人は多神教で、属州が増えるにつれ、それぞれの地域の神々を排除せず受け入れるなど、八百万やおよぞうの神々が住まう日本と同じような大らかな宗教

観、倫理観を持っていました。そのせいか、江戸時代の銭湯同様、

古代ローマでは混浴が許されていきました。

——それは初めて知りました。

ヤマザキ 『テルマエ・ロマエ』で描いた皇帝ハドリアヌス(在位一一七―一三八年)の時代になつてなくなつたのですが、それまでは、江戸時代の銭湯と変わらなかつたようです。

周りから理解されない「知性の皇帝」ハドリアヌス

——ところで、主人公ルシウスは、古代ローマから現代日本という異次元の世界へ来たのに、

シヨックも受けずに好奇心を持って、これは何だろう、自分のものにしよう、とする。この貪欲さ、



やまざき・まり ● 1967年生まれ、東京都出身。14歳で独・仏を一人旅。17歳のときに単身でイタリアへ渡り、フィレンツェの美術学校で油絵を学ぶ。27歳でシングルマザーとなったのち、30歳で講談社の新人オーディションに合格し、漫画家デビュー。35歳のときにイタリア人研究者と結婚。エジプト、シリア、ポルトガル、アメリカを経て現在はイタリア在住。漫画作品に『テルマエ・ロマエ』（エンターブレイン）、『スティーブ・ジョブズ』（講談社）、エッセイに『男性論』（文春新書）、『望遠ニッポン見聞録』（幻冬舎）など多数の作品を発表している。

精神の強さは、滑稽ながらもすごいなと感じました。

ヤマザキ ルシウスは、古代ローマの誇りをしょって立っている人なので、それが強さの源泉です。ただ、全真自分より低い人間なので、文化ももらって当然という意識なので、現代日本人（平たい顔族）の文化にはどこかで負けそうになっている、その辺の葛藤が滑稽で描き応えがありましたね。

——一方で、同じく『テルマエ・ロマエ』の重要人物として登場し

てくる皇帝ハドリアヌス。彼は別荘に一人籠もるようなシーンもありましたが、どんな人物だったのでしょうか。

ヤマザキ ハドリアヌスは今でこそ「五賢帝」の一人とされており、私は「知性の皇帝」とも呼んでいますが、当時の評判は最悪でした。当時のローマ市民は「領土拡張こそ善」と考えていましたが、彼は拡張された領土の一部から撤退してしまつたのです。そのため彼が亡くなった時、当時の元老院からは、彼を記憶抹殺扱いにすべ

きとの意見が出たほどです。

しかし一方で彼は、属州を丹念に訪ねて各部族にローマ市民権を与えたり和解を図るなど、領土の保全を重視した政策を進めました。実は彼の政策こそがその後のローマ帝国の繁栄の基礎となったのです。

また彼は、芸術や哲学にも造詣

異質な人間を受け入れる寛容さが天才を生かす

——お話を伺っていると、ハドリアヌスは、「周りから理解されない天才」。今ご執筆になっている作品（注）の主人公スティーブ・ジョブズと重なるイメージがありますね。

ヤマザキ 似ていると思います。ジョブズは、本能がもたらす人間的な感覚、いわばアナログ脳と、論理やデータによってその感覚を具体的なものとして構築できるデジタル脳の両者を兼ね備えた天才でした。しかし、ジョブズは、若いときインドを放浪し、ヒッピーカルチャーに傾倒。その性格は独善的、独裁的で、周囲とは常に摩

が深く、建築家としてもギリシャ様式を超えたドーム建築のパンテオンを設計・建設するほどの技術を持っていました。パンテオンは、ローマ建築の代表作の一つで、今でも建築専攻の学生が必ず学ぶ程度の完成度の高さです。彼は、当時の人には理解されにくかったけれど、本当の天才でした。

擦を起す。ハドリアヌス以上に扱いづらい人間だったと思います。

そうした特異な人物がアップルを築き上げるには、彼の特異さをどう受け止めるかという、周囲の寛容さが非常に大事なポイントでした。

日本だったら、ジョブズはまさに村八分になりそうな人物です。しかし、アメリカには、変だから「排除する」のではなく、「ちょっと様子を見てみよう」と受け止める寛容さ、戸惑わない心構えがありました。そこがアメリカの強みであり、また属州

の習慣や神々を排除しなかった
古代ローマにも通じる部分だと
思います。

(注) 『ステイプ・ジョブズ』(講談社)は、
世界的なベストセラーとなった、アップル
創業者ジョブズ公認の伝記(ウォルター・
アイザックソン著)を漫画化したもの。

日本人ならではの純粋な好奇心

——日本人と古代ローマ人の宗
教的な寛容さは似ているものの、
両者には違いもありそうですね。

ヤマザキ 寛容さの前提として好
奇心に違いがあるように思います。

江戸後期に日本を訪れた欧米人
たちの多くが日本人の天真爛漫な
「子供らしさ」について記録に残
しています。「子供らしさ」とい
うのは、子供のような無邪気な好
奇心を持っていたということだと
思います。未知のものを見てみた
い、取り入れたいという、純粋な
好奇心です。これは、遣隋使、遣
唐使の例にも表れているように、
苦労してでも外の文化を手に入れ
たいという、島国であるが故の枯
渴感と言っても良いでしょう。こ
れが日本人の寛容さを支えている
ように思います。

こうしたメンタリティーは現代
でも生きています。外国のミュー
ジシャンの多くは、よく「日本人

が大好き。日本ツアーは楽しみ
と言います。ツアーで外国を回る
と、「お金を払っているのだから」
と相当働かされるわけですが、日
本に来ると、皆親切で腰が低く大
歓迎してくれるわけです。

一方で、古代ローマ人の好奇心
は違います。世界は広いのだから
いろいろなるものを積極的に受け入
れようという、ある種の自信に裏
付けられた好奇心なのだと思います。
泣く子も黙る古代ローマ帝国、
どんなものが入ってきてても動じる

——確かに純粋な好奇心は強み
でしょうが、課題もあるかと思
います。ヤマザキさんから見ると、日
本人は「ここは変えた方がよい」
と感じるところはありますか。

ヤマザキ 日々、そういうことを

ことはない、という非常に強いプ
ライド、自尊心です。

——日本は、海に囲まれ、孤立し
ている一方で、存立自体は安定し
ている。それが故に、純粋な好奇
心で動けるといふことでしょうか。
か。そしていったん存立が危う
くなれば村八分のように拒絶す
る……。

ヤマザキ そうですね。そして純
粋であるがゆえに日本は物凄い力
を持ったガラパゴス諸島にもなっ
ていると思います。例えば、イギ
リスが発明した蒸気機関車を進化
させて、世界で最も早い時期に新
幹線を作ったり、トイレも、あつ
という間に和式から美しい温水洗
浄便座にしてしまう(笑)。

バーチャルな世界を脱して、 自ら体験する勇気を

感じますね。例えば、総務省が提
唱した「独創的な人向け特別枠」。
この企画自体の是非は別として、
「和製ステイプ・ジョブズの育
成を目指す」という形で報じられ
て話題になりました。

『テルマエ・ロマエ』は、現
代日本にタイムスリップし、そ
の風呂文化に衝撃を受けた古代
ローマの浴場設計技師ルシウス
が、現代日本のアイデアを持ち
帰り斬新な浴場を造り出すコメ
ディ。累計900万部を突破し、
2010年手塚治虫文化賞短編賞
を受賞。2014年4月に映画化
第2弾が公開された。



しかし、ステイプ・ジョブズ
は育てて作れるものではありません。
ジョブズはアナログ脳と、デ
ジタル脳の両者を兼ね備えた天才
でしたが、こうした天才はマニユ
アルで育てられるものではありません。
日本人はつい何か既成のも
のに頼りたくなりますが、天才は、
いつ噴火するか分からない富士山
のようなものです。自然の摂理を
大切にして、どっしり構え、天才
の出現を待つくらいがちょうど良
いと思います。

——日本人は心配性でつい手を



かけようとしてしまうということが課題ですね。

ヤマザキ いつも帰国した時に感じるのですが、日本のメディアには知的教養心を刺激するようなものが少ないですね。テレビのパラエティ番組はすべてテロップが入るなど、メディアの説明が多すぎて、受け手が自ら考えて化学変化を起こすような楽しみ方ができない作りになっています。

例えば、一人旅番組。かつて私が大好きな兼高かおるさんの「世界の旅」(一九五九―一九〇年TBS系で放送)がありました。女性一人でどんな国にも行って、どんなものも受け入れる兼高さんは、

まるで動く古代ローマのようなイメージです。それでいて番組は、氷山の一角を見せるだけなので、私たち視聴者はそこに他の情報を織り交ぜながら、自分で夢や想像力を膨らましていました。

それに対して、今の旅番組は、視聴者を一人旅させた気分にはするけれど、自分で一人旅をしようとは思わせない。本当は、一人旅をするときぐくエネルギーが要ります。お金も使うし、勇気も必要、危険も伴う。現地の人とのコミュニケーションも難しい。でもこうした苦労を全部隠してスマートに見せる番組が多い。「いいんだよ、

オリジナルな辞書をもて

——『男性論』で「オリジナルな辞書をもって、外に出よ」と書かれています。あの言葉は非常に深い意味を感じます。自分の体験をしっかりと自分の辞書に刻み込んで、それを生かしていくということとは大切なことですね。

ヤマザキ 肉体的な苦労のみならず、精神的な苦労も含め、自分の中の辞書に経験として刻んでおく

外へ出なくても。この国にいれば全部事足りるから」と言っているように感じます。ひきこもりのですね。

——バーチャルな海外が作られてしまっているわけですね。

ヤマザキ 何でもそうです。今の日本は、本やテレビ、さらにネットといったバーチャルなもので足りるようにしていて、自ら足を踏み出す勇氣が育ちにくい環境になっていきます。海を乗り越えていけばそこでもまったく新しいものが生まれるかもしれないのに、その機会を逃してしまっているのは悲しいですね。

と、いつか必ずそれが助けとなります。理詰めではどうにもならない部分は体を張って経験していくしかありません。

——海外で苦勞されてきたヤマザキさんだからこそ、その言葉の重みが伝わってきます。

ヤマザキ 今だから言えますが、海外生活中は、要所要所で泣いていました。でも、それでいいんで

す。合理性を重視して、なるべく泣く目に遭わないようにしようとすると、それがずっと弱みになってしまふ。やってみたら「意外に自分は凄いいじゃん」と気付くこともあるんです。経験してみることができ得られないことは多いと思います。

——最後に、ヤマザキさんが『テルマエ・ロマエ』の主人公のように突然古代ローマにタイムスリップして、何か一つだけ持ち帰っていいと言われたら何を帰りますか。

ヤマザキ うーん、当時の高度な技術を駆使したもの、例えば当時外科手術で用いられていた鉗子かんしなんかいいですね。実は博物館に行けば今でも見られますが、その前で一時間ぐらいたたずんできた。古代ローマがどれくらい進んでいたか想像すると、世界がどんなに広がります。

——やはり山崎さんはルシウスのように好奇心旺盛ですね。本日は興味深いお話をありがとうございました。

(聞き手/情報サービス局長・丹治芳樹)

地域の底力——今治市

愛媛県今治市

自立の水軍魂を 今に受継ぎ共存を支える

タオルと造船。愛媛県今治市では、長年地元を支えてきた地場産業が紆余曲折を経て、今再び、暮らした人々の心に希望の灯りをともし、次なる時代への道しるべになっている。さらには、瀬戸内海を渡る「瀬戸内しまなみ海道」から吹く風が、港町に新たななる可能性をもたらす。

取材：文山内史子 写真野瀬勝一

愛媛県今治市と広島県尾道市を結ぶ「瀬戸内しまなみ海道」の今治市側に位置する「来島海峡大橋」。全長 4105 メートル。



「今治城」は日本三大水城のひとつ。築城の名手として知られる藤堂高虎が手がけ1604年に完成。

地元を誇りをもたらし「今治タオル」のブランド

愛媛県今治市。高校野球ファンの方ならそう聞いて真っ先に胸をよぎるのはおそらく、「今治西高」こと県立今治西高等学校かもしれない。春夏合わせて二・四回、甲子園球場をわかせてきた名門校だ。

最近では二〇二二年の「ゆるキャラ®グランプリ」で、「パリーさん」が一位を取ったのも記憶に新しい。さらには戦国時代の村上水軍に焦点をあてた、和田竜氏作『村上水軍の娘』が「二〇一四年本屋大賞」に選ばれたことでも注目を浴びている。能島や来島といった物語の舞台の島々が、今治市内に位置す

るためだ。

メディア等でたびたび紹介される、「今治タオル」に思いを馳せる方もいるだろう。二二年に東京・青山にオープンしたアンテナショップの評判は高く、著名人をはじめ愛用者も多い。

実際、全国生産量の半数を占めるタオルは今治市の主要産業だが、数年前は「どん底だった」と語るのには、創業一九三四年の「コンテックス」代表取締役社長で、今治のタオル製造に関わる一七社で作る「四国タオル工業組合」の理事長の近藤聖司氏だ。

古くから繊維産業が盛んだった今治で、初めてタオルが織られたのは一八九四年のこと。昭和初期には「四国のマンチエスター」と呼ばれたほど、一大綿工業都市として発展した。その後も戦争やオイルショックを挟みながらも生産量は増大し、やがてバブル時代を迎える。

「当時タオルは、企業の贈答品として使われることが多かった。景気の上昇とともに需要は高まり、急激な勢いで売り上げが伸びました」

バブルと歩調を合わせた成長

は、その崩壊とともに逆方向へ。発注量が激減した上、価格競争の負のスパイラルのなかで、海外で製造された廉価な商品が輸入される。日本の問屋が切り拓いた打開策だったが、それによって問屋と共に歩んでいた国内のタオルメーカーは大打撃を受け、今治でも全盛期に比べて七割強のメーカーが倒産や廃業に追い込まれた。〇一年には輸入に関するセーフガードを申請したが、発動には至らず。近藤氏曰く「いつ事業の幕を引くか」という状況が続く。

転機は、〇六年に訪れた。縁がつながり、クリエイティブディレクターの佐藤可士和氏に組合のブランディングを依頼したのがきっかけだ。ユニクロなどのブランディングで名を馳せた時代の寵児だけに、無理を承知の上だったが、最終的には今治産タオルの質が佐藤氏の心を動かした。

「今までにない感触で、非常に吸水性もいっと前向きな連絡があったんです。その後、今治に来ていただいたのですが、技術力もあるし、まだ百何社残っている。行け

焼き鳥のまち、今治のPRキャラクター「パリーさん」。冠は瀬戸内しまなみ海道にある「来島海峡大橋」をモチーフに、腹巻は「今治タオル」で出来ている。手には、造船業が盛んなため船の形のサイフを持っている。



るのではないかと」

ロゴマークの作成を含む「今治タオルプロジェクト」が立ち上がった結果、四年後の一〇年には数字が上昇に転じた。それを導いた佐藤氏の指針は、ごくシンプルだった。

「無いモノを付加するのではなく、元々あるモノを磨くのがブランドですということでした」

礎となったのは、「今治タオル」独自の品質基準。高級品か否かといったクオリティーではなく、吸水性、安全性、耐久性といった基本的な機能基準を守りながら前進だ。とはいえ、最初のうちは相当な苦労があったようだ。

「組合は合議制で、なおかつ商工会議所や行政も絡んでいますから。しかし佐藤さんは、そんな調整を



「四国タオル工業組合」理事長の近藤聖司氏。背後を彩るのは、「今治タオル」ブランドの証となる、佐藤可士和氏考案のロゴマーク。

している時間的余裕は我々にはないんだと」

佐藤氏に背中を押されつつ生産者と消費者のコミュニケーションを図るための取り組みとして、地道ながらも的確なメディアプロモーションの展開が「今治タオル」の認知度とファンを確実に広げた。当初約六〇〇枚だったタオルに縫い付けられるロゴマークの使用枚数が、現在は六〇〇〇万枚に及んでいることこそ成功を如実に物語っている。とはいえ、近藤氏には浮き足立った感はない。

「組合のメンバーはみんな、事業運営が安易な方向へと行かなくなりましたね。今の事業の中身をきっちりしようとする会社もあれば、

新企画でさらに売り上げを伸ばしていくという会社もある。いずれにしても『今治ブランド』が自分だけのものじゃないという意識が、それぞれの企業に高まっています。今後、必ず問題は出てくる。でも、その際にはみんなが解決しようという思いがすごく強いんです」

責任の度合いが増したのには、ロゴマークとともに各社の番号がタグに記されているのも大きい。そんなタオル産業の変化を、地元はどう見ているのか。そう尋ねたところ近藤氏の表情が緩んだ。

「皆さん結婚式の引き出物や贈答品として積極的に使っていただいたいののが、昔と全然違いますね」かつては、欧州の有名ブランドのOEM生産がほとんどで、今治産であっても誰も認識できなかった。さらには、贈答品の増加によりタオルそのものに有り難みがなくなっていたという。それが、地元への誇りへと変わったのだ。

染色工場からタオルの加工に必要なミシンメーカーまで、業界の裾野は広く、就業人口や受け皿も確実に増えてきた。知識を問う「タ



オルソムリエ」、技術者を対象とした「タオルマイスター」制度と、人材育成のための技能検定がまた、従事者のモチベーションを培う。新卒募集に若い人が希望を抱いて応募してくるようになった。

「今治タオル」としての海外への進出にも、近藤氏は手応えを感じている。しかも、タオル業界のみならず、インスタレーション（注1）関連の展示会にも参加が認められるようになったのが興味深い。それだけ、デザイン性や機能性にすぐれた商品が多いという証しだろう。

（注1）一九七〇年以降一般化した現代芸術の手法の一つ。屋内外を問わず、展示空間と有機的な関係を持つよう作品を展示することで、その作品だけでなく、展示空間全体を作品として体験させる芸術手法。また、その空間そのものを指す。

組合各社自慢のタオルが揃う「今治タオル」のショールーム。その一角には昔ながらの織機も展示されている。



今も継がれている 勇敢な村上水軍の魂

一致団結とともに、独立独歩もあり。独自の展開で特筆すべきは、今治市郊外に建つ「タオル美術館 ICHIRO」だ。年間入館者数約三〇万人。タオルを使ったアートやムーミン等のキャラクター関連の展示、披露宴も行われるレストランに加え、工場見学案内や自分で刺繍が施せる体験コーナーもあり、タオルにちなみだすべて



気候が温暖で、自然災害の影響を受けにくいのが、今治の特徴のひとつ。「ここを離れてよそへ行く必要はない」と、「一広」代表取締役社長の越智逸宏氏は話す。

を凝縮した一大テーマパークという観がある。

「産業観光は、三〇年来のずっと夢だったんです」と話すのは、今治商工会議所の副会長でもある「一広」の代表取締役社長の越智逸宏氏だ。大日本紡績（現ユニチカ）に一〇年勤めた後、一九七一年に独立。織機や工場、美術館の設計をすべて自らが手がけ、コツコツと事業の拡張に努めてきた。

「タオル美術館の発展が、地域のためになる。うちだけよくなったって、地域のためにならなければ意味がないですよ」

タオル業界不遇の時代に海外に移さざるを得なかった染色工場の復活、東京にあった物流センターの地元への移転等、今治の雇用の拡大に貢献しているが、越智氏の



思いは業界のみにとどまらない。近くの休耕田を借りてレストラン利用の無農薬野菜を栽培したり、地元の特産品を美術館で販売したりと、実践したアイデアは多岐にわたる。

「どんな環境であっても、自分の力を最大限以上に発揮し、経営をしていくのが基本だと私は思う」

話を聞きながら次第に、潮の流れがきつい瀬戸内を自在に行く村上水車のイメージがふくらんだ。「私ら越智というのは村上水車の子分でしたから、そういう氣質がDNAで残っているかもしれない」

まさしく本物だったと、嬉しさがこみあげた。



直販のショップやカフェ、レストラン等を含む5階建ての「タオル美術館 ICHIRO」。4階が製造工程見学フロアになっており、高速でタオルが織られる様子を間近に見られる。



市町村合併で生まれた 日本一の海事都市今治

タオル業界だけを見れば現在の今治は課題を克服したかのようにも思えるが、約一六万人の市民を抱える菅良二市長は現状をどのように見ているだろうか。

今治市は〇五年に一二の市町村が合併するという、全国でもあまり例のない大合併を遂げたが、目下抱える大きな問題は人口の減少

だ。

「県下でも人口減少のスピードが非常に速く、先の報道にもあった日本創成会議では『消滅可能性都市』のひとつになりました。非常に危機感を持っています」

すでに子育て支援策としての放課後児童クラブの充実、妊婦への保健サービスの強化等、細かい配慮を重ねてきたが、まちの活力の源はなんとと言っても、雇用の場の確保だと菅氏はいう。

今治市の人口推計で興味深いのが、一五〜二四歳の世代では進学などの影響で減少するものの、二五〜二九歳では数字は上昇する。ところが三〇歳を過ぎると、再び減少傾向に。多くの若者は地元でいったん就職するが、途中で断念せざるを得ない状況が見える。

ということとは、三〇代が未来に希望を抱ける就職先としてタオル産業の復活は一翼を担うはずだ。さらには、合併効果が今後も期待される雇用の柱がある。それは海事産業だ。

瀬戸内海の島々では二世紀か



「今治造船」では年間90隻以上の船舶を建造。大型貨物船が「2013年シップ・オブ・ザ・イヤー」を受賞する等高い評価を得ている。

2009年に市長に就任した菅良二氏は、瀬戸内に浮かぶ大三島出身。マイバイクに乗り、「瀬戸内しまなみ海道」のイベントにも積極的に参加。



スケールもあり、感動やインパクトは大きい。タオル同様、造船業も誇るべき今治の自慢として子どもたちの目に映るに違いはない。

ら塩づくりがさかんで、その輸送のため海運、造船業が発展してきた長い歴史がある。合併前は造船所や海運会社が各自治体に点在していたが、「今治市」としてまとまっ

のにも、結束力をもたらした。その話すのは、創業一九〇一年、国内のみならず世界でもトップクラスの建造量を誇る今治造船の執行役員の都築恵氏だ。

た現在、造船に携わる事業所は一四、建造隻数では国内の一七%を占める。外航、内航合わせると海運業は三〇〇社近い。

「一四の造船所はもともと近隣なので、何十年も前から仕事上や家族的なつき合いがありました。合併によりいずれも今治市の企業となったことでよりまとまって動くようになったんです。また、行政も一体化され、地域全体でより迅速な対応ができるようになりました」

「日本一の海事都市、海事クラスターが形成された。その集積をふまえ、古くから海運等で栄えてきた伝統、歴史、文化をまちづくりを生かしていこうと思っています」と菅市長は語る。

その一環として、合併後は進水式や造船工場の見学、海事教室の開催等が積極的に行われている。

たとえば国立公園指定の瀬戸内海は、個別企業の乱開発を防止するため、さまざまな規制が課されている。しかし、合併後の今治市

が、環境にも配慮した造船振興計画を立ち上げたことで、一四の造船所にとっては、今治での事業拡大への突破口が開かれようとしている。たとえば、今治造船が世界有数の企業であつても、そして独立の気風あふれる今治の企業であつても、一社だけの要請では、中々に難しいことだ。

また、〇九年からは国際海事展「パリシップ」を市内で二年に一回開催し、一三年には世界中から約五万二〇〇〇人の来場者を記録。まちに賑わい（にぎわい）がもたらされた。

造船会社が一致団結し、今治市とともに取り組む「今治地域造船技術センター」も、状況に明るい変化を生んだ。この一〇年間で一二〇〇人以上が卒業したが、即

戦力の技術は働く意欲につながるのだから、就職後の途中退職者は、確実に減っている。

七〇年代の造船不況をはじめ、これまでの道のりは決して順風満帆ではない。近年は中国や韓国の



「今治造船」執行役員の都築恵氏によれば、かつてと比べて造船業の就業環境は飛躍的に改良され、最近では女性の姿も見られるとか。





「今治造船」では、次世代を支える子どもたちの見学も積極的に受け入れている。「来島海峡大橋」からは、その広大な敷地が一望できる。



ライバル企業の強い圧力に晒^{さら}されているものの、今治にはほかには無いネットワークの強みがあると、都築氏はいう。

「造船所だけでなく多様な船用機器メーカーが数多くあることで、いわばジャスト・イン・タイムで、必要なときに必要なものがそろおう。世界を見回しても、今治のような海事産業の共存共栄は見られない」

ですね」

その未来に期待がかかるのは、合併後、これまで支店を設けていなかった金融機関が進出してきたことでもわかる。そして、損害保険会社、商社、海事協会、税関、海員学校と、海事関連事業の集結——海事クラスターは、これからも地元で活力をもたらしそうだ。

旅人が行く

しまなみ海道が 未来にもたらずもの

タオル、造船という地場産業に加えて、観光振興においても、今治は大きな宝を持っている。一九九九年開通の「瀬戸内しまなみ海道」の存在だ。本州と四国の間には三つのルートがあるが、七〇キロに及ぶこの「瀬戸内しまなみ海道」の橋だけは、生活道として島の人々が利用できるように自転車道兼歩道が設けられた。その結果、二年前の調査では推計年間一七万五〇〇〇人のサイクリストが、国内外から訪れるようになったのだ。

来る十月二十六日には、今年で



「しまなみサイクルオアシス」のシステムが評判を呼び、最近では他県からもヒアリングに訪れる人が多いという、NPO法人「シクロツーリズムしまなみ」の代表理事の山本優子氏。

開通一五周年を迎えた「瀬戸内しまなみ海道」において瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会実行委員会主催の国際大会「サイクリングしまなみ」(注2)が開催される。今治市をスタートし、広島県尾道市を目指すコースをはじめ様々なコースに、参加者八〇〇〇人が見込まれる。

(注2) 愛媛県・広島県主催の「瀬戸内しまなみ博覧会」瀬戸内しまのわ2014」の一環として開催される。

「瀬戸内しまなみ海道」を世界のサイクリストも熱い視線を注ぐまでに、時間をかけて培ってきたひとり、NPO法人「シクロツーリズムしまなみ」の代表理事の山本優子氏だ。

「当初、地元の人々は橋にあまり価値を見だしていませんでした。救急医療に関する安心感は生まれてはしたが、料金が高い、船便が減るなどマイナスの印象もあったと思います。観光客も〇六年頃までは、一部のサイクリストが来る程度でした」

もともと、一帯でグリーンツーリズム活動などはさかんに行われていたが、地域独特のものは何か？と考えた結果見いだしたのが自転車。実際に旅行商品として成り立ちうるのかという視点で山本氏はマーケティングを重ねた。

「サイクリストは、そもそもバスとか車を選択する方とは違う志向性を持っている場合が圧倒的に多

今治駅前の「ゲストハウス シクロの家」は賛同する仲間がボランティアで建築に携わった。



いんです。ちょっと脇道にそれて、地元の方々と会話もしてみたいといった、人との交流意欲が高い。農作業の手をとめて話しかけてくれた地元のお父さんの笑顔が、一番心に残ったというような、暮らしの中に入っていくような旅行スタイルなんです。そういう方たちをお迎えするのが大切だなと気づき始めたのが、取り組みの中では大きかったですね」

一方島の住民も、外から元気を得る必要を感じているとはいえず、それとて許容量は限られている。大きなホテルを必要とするような観光ビジネスは、成り立ちにくい。両者の思いは同じところにあった。

「サイクリストが農業、漁業中心の暮らしに分け入らせてもらう。そんな旅行スタイルを定着させる必要があると思います、まずはサイクリストが島の散策を楽しめる独自のマップを制作したんです」



自転車のみならず徒歩でも散策を楽しめるのが「来島海峡大橋」をはじめとする「瀬戸内しまなみ海道」の魅力だ。

さらに生まれたのが、一般家庭の軒先を借りる形で一〇年からスタートした「しまなみサイクルオアシス」という仕組みだ。まちなかとは異なり、自転車店どころかコンビニエンスストアすらない島もある中、民家でもトイレが利用できる、空気入れも設置してあるというサイクリストへのサポート体制は徐々に浸透し、現在七〇軒以上に。お世話になった「しまなみのお母さん」に会うために再訪する、というケースも増えたという。

愛媛県全体にも広がりがつつあるしまなみサイクルオアシスの総合拠点として、一四年七月にはJR今治駅前にカフェ兼宿泊施設の「ゲストハウス シクロの家」がオープン。ツーリストたちにとって、貴重な情報交換の場にもなっている。



る。

「見れば忘れられない雄大な瀬戸内しまなみ海道ですから、もう一回来たいと思ってもらえる自信があります。ただ、二回目、三回目のファンをつないでいくのは住民との出会い。四国遍路の『お接待』の文化もあるでしょう、今治の人は外から来る人を迎えたいという気持ちが高く高いんですね」

今治市の取り組みのひとつ、「ラントウレーベン」という移住体験施設もまた、地元住民とのふれあいが自然と生まれ、「積極的に両者がかわり合いを持って、地域の盆踊りなどにもどんどん入り込んでいます」との菅市長の話を思い



出した。県内外から応募者は多く、定住につながっているケースも少なくないそうだ。

独立性と協調の共存に加え、新しいものを取り入れて前に進む「進取の気質」が今治にはあるという。そのしなやかで豊かな心を羨ましく思いながら「瀬戸内しまなみ海道」の端、来島海峡大橋のたもとに立てば、青い海と空、島々の緑が織り成す美しい絵。まっすぐに延びる海道から未来にどんな新しい風が吹き込み、今治の地に根づいていくのだろうか。

守
対談
破
創

危機の中から未来を創る

統合の進む欧州で長い外交経験を持ち、日本には3度目の赴任となるシュヴァイスグート駐日EU（欧州連合）大使。一方、中曽宏副総裁も3度の欧州生活を含め豊富な海外経験を持つ日本銀行きっての国際派。この二人の日欧の文化・歴史等を巡る語らいの中から、危機克服のエネルギーが未来を創る様が見えてきた。



日本銀行副総裁
中曽宏
Hiroshi Nakaso

1953年 東京生まれ。78年東京大学経済学部卒業後、日本銀行入行。97年信用機構局信用機構課長、2000年信用機構局参事役、同年国際決済銀行へ転出、01年金融市場局兼国際局参事役、03年金融市場局長、08年日本銀行理事、12年日本銀行理事再任、13年3月日本銀行副総裁に就任、現在に至る。

写真 谷山 實



駐日EU大使（取材当時）
シュヴァイスグート・ダイトマル
Hans Dietmar Schweisgüt

1951年、オーストリア・チロル州生まれ。オーストリアと米国にて法学を学び、77年オーストリア外務省入省。首相府ラツィナ政務次官（経済調整担当）主席秘書官、公共経済・運輸省大臣官房、主席秘書官、大蔵省大臣官房、経済審議官を歴任し、87～91年まで駐日オーストリア公使、および99～2003年まで同大使、03～07年まで駐中国オーストリア大使、07～10年までEU常駐オーストリア代表、大使を務める。11年1月駐日EU大使に就任。

大きく変化した 日本の三〇年

中曾 シュヴァイスグート大使は、外交官として日本に勤務されるのは今回が三度目と伺っています。

大使 その通りです。七〇年代末に初めて旅行で日本を訪れた後、オーストリア外交官として八〇年代後半と二〇〇〇年前後に、そして今回、一一年にEU大使として赴任しました。ほぼ一〇年ごとに日本に滞在していることとなります。

中曾 三度の勤務経験を通じた、日本の印象をお聞かせください。

大使 この三〇〜四〇年で日本は大きく変化しました。

私が初めて日本に勤務した八〇年代後半、日本はバブルの真ただ中にあり、人々は楽観的な雰囲気に含まれていました。當時は、OECDが「皇居の商業価値がカリフォルニア州と同等となった」とのレポートを発表し話題になったほか、日本は米国を抜いて世界一になるとの予想も出ていましたね。

ところが一〇年後、二度目の赴任時には、バブルは崩壊し、人々は悲観的な雰囲気に含まれていました。欧州の関心もいったんは日本から中国にシフトしたように思います。足許、欧州は、中国に対する評価も冷静かつ客観的に行うようになり、少子高齢化への対応等、日本の様々な動きもすっかり関心を持ってみるようになってきていると思います。

文化大国・日本へ

中曾 私はバブル当時、逆にロンドン事務所におりましたが、日本の銀行が次から次へとロンドンに駐在員事務所や支店を設けようとするなど、日本経済の勢いをロンドンでも肌で感じていました。

ところで、当時欧州の人々の日本の文化に対する認識は、まだまだ限られたものであったように思います。今はどうでしょうか。

大使 五〇〜六〇年代は、例えば日本映画の黄金時代で小津安二郎、黒澤明らが素晴らしい作品を生み出し、欧州にも強いインパ

クトを与えました。ただ、残念ながら当時日本文化に触れるのは基本的に少数のエリート層に限られていました。日本の文化は、その後徐々に広まっていきますが、日本の経済力に注目の集まった八〇年代後半ですら、文化的な超大国ではありませんでした。

しかし、興味深いことに、現在の日本の文化的な影響力は、日本の経済的地位が非常に高かった当時に比べても、ずっと強くなっています。日本政府の「クール・

ジャパン」キャンペーンは大変素晴らしい取り組みですが、欧州では、そこまでの努力は不要と思えるほど、日本は「クール」だと考えられているように思います。宮崎駿や北野武の映画作品が多く

の人を魅了しているだけでなく、村上春樹の小説の発行部数は、欧州中で彼の作品を読んだことがない人を探すのが難しいのでは、と思わせるほどの多さです。そのほかファッション、漫画、日本食から建築といった分野まで、エリート層だけでなく幅広い層の人々が、日本の洗練された文化に魅了されています。

中曾 大使も日本の映画は実際にご覧になりますか。

大使 もちろんです。

欧州統合と 日本の不思議な縁

中曾 今のお話を伺って日本人として勇気付けられました。日本とEU双方にそれぞれの文化の流れがあり、相互に影響し合っており、この文化交流は、次世代にわたって大変重要ですね。

ところで、欧州統合の歴史を振り返ると、その背後に日欧の「人的つながり」があったことに、不思議な縁を感じます。

大使 リヒャルト・クーデンホーフェルカレルギー伯爵（一八九四年〜一九七二年）の話ですね。伯爵は、第一次世界大戦の後、一九二〇年代から、欧州統合構想の先駆けとなった「汎ヨーロッパ主義」を主張し、様々な著作・政治活動を展開しました。

彼は、オーストリア・ハンガリー帝国の外交官と日本人青山みつとの間に東京で生まれ、日本人名として「栄次郎」と名付けられました。帰国後、父が急

欧州統合の歴史

西暦	出来事
1918	第一次世界大戦終結
1923	クーデンホーフ＝カレルギー伯爵「汎ヨーロッパ」を提唱
1939-45	第二次世界大戦
1946	チャーチル チューリヒで「ヨーロッパ合衆国構想」を提唱
1949	東西ドイツ成立
1951	ECSC（欧州石炭鉄鋼共同体）発足
1957	ローマ条約（EEC〈欧州経済共同体〉条約）調印（原加盟国は6カ国）
1967	EC（欧州共同体）設立（原加盟国は6カ国）
1979	EMS（欧州通貨制度）およびECU（欧州通貨単位）開始
1985	欧州理事会、「歓喜の歌」を「欧州の歌」として承認
1989	「ベルリンの壁」崩壊、東欧革命
1990	東西ドイツ再統一
1992	マーストリヒト条約（欧州連合条約）調印
1993	EU（欧州連合）発足、単一市場スタート
1998	ECB（欧州中央銀行）業務開始
1999	ユーロ導入
2002	ユーロ紙幣・硬貨流通開始
2009	リスボン条約（欧州連合条約および欧州共同体設立条約を改正する条約）発効 欧州債務危機勃発
2010	EFSM（欧州金融安定化メカニズム）等の創設
2012	ESM（欧州安定メカニズム）発足
2013	EU加盟国、28カ国に

逝し、以後はみつに育てられました。

伯爵は、欧州統合を主張するだけでなく、その先に世界連邦も展望するなど、大変視野の広い人でした。現在ベートーベンの「歓喜の歌」が「欧州の歌」となっていますが、これも伯爵が早い段階で提唱しています。一九五〇年には、欧州統合に多大な貢献をした人に贈られるカール大帝賞を、最初に受けています。

中曾 私が伯爵の幾つかの著作を読んだ際に受けた印象として、伯爵は、第一次世界大戦の悲劇

や苦悩を目の当たりにして、欧州の再興や恒久的平和を願う思いから「汎ヨーロッパ主義」を提唱するに至ったのではないかと感じました。どうでしょうか。

東西分断の解消が加速した欧州統合

中曾 その通りですね。伯爵は、全体主義への反対も貫き、第二次世界大戦ではかろうじてヒットラーの追及から逃れています。ソードですが、私の欧州の三度の生活の最初となった六〇年代後半の少年時代、西ドイツ・ハ

ンブルクで暮らしました。父と

一緒に旧東ドイツとの国境を訪れた際、のどかな草原に東西を分断する有刺鉄線が張り巡らされていましたが、そこにいた検問所の国境警備兵が有刺鉄線を指しながら「この先も同じドイツなんだよ」と言っていたことが、今もって忘れられません。その後、欧州の歴史を知るにつれ、警備兵の少し悲しい眼差しを思い出し、彼の言葉の重みをさらに感じるようになりました。

欧州統合の原動力は、警備兵の言葉に隠された、第二次世界大戦のもたらしたとてつもない

破壊、分断と、その後の人々の恒久平和を希求する気持ちだったのではないかと感じています。**大使** 私が日本に最初に赴任した八七年は、副総裁も目にされた「鉄のカーテン」が消滅する少し前ですが、その当時は、東西分断が解消されるとは、私の周囲の外交官を含めて誰も予想していないことでした。今でも、奇跡に近かったと思っています。そして、その東西分断の解消は、欧州統合の動きを大きく加速することになります。

実は、それまで欧州統合の動きは緩やかでした。当時欧州共同体は一二の加盟国により構成された、現在よりも小規模の集団でした。八〇年代後半に域内市場の統合が順調に進み、自信を深めつつある時期でしたが、当面は今の規模で、思っていたのです。しかし、八九年のベルリンの壁崩壊は様相を一変させ、もはや加盟国を増やさないことは不可能であることが明白となりました。そして、九三年発効のマーストリヒト条約（欧州連合条約）によりEU創設と



通貨統合等が進んでいき、〇二年には共通通貨としてのユーロが広く使われるようになります。ユーロへの移行は、一部の国でかなりの抵抗はありましたが、結果として非常に円滑に進み、人々のマインドも前向きになりました。

中曾 もともと欧州の人々は、自国の文化・歴史・伝統に対する愛着を持っていたと思いますし、通貨はそれらの象徴でもあります。この時期は、人々が持っているであろう思いと、他方で経済の合理化を追求することの間のバランスを上手にとる必要があった、非常にデリケートな

時期だったのでしょうか。

大使 そうですね。八〇年代後半以降、欧州憲法制定が議論され始めると、統合の取り組みは大変革をもたらすものだという意識が急速に広がってきたのです。そうした中で、「自国だけでは何も決められなくなる」といった抵抗感も大きくなりました。マーストリヒト条約の批准が英仏およびデンマークで難航したことはその表れです。

欧州債務問題を乗り越える EUそして日欧の未来

中曾 これまでEUは様々な危機を経験しながら、それを乗り越え

るたびにむしろ強化されてきました。これは驚くべきことですし、まさに「雨降って地固まる」という日本のことわざの通りです。そこで、〇九年のギリシャ危機から始まる欧州債務問題が欧州統合にどのような影響を与えたのか教えてください。

大使 EUは危機を乗り越えることで強化されてきたとの評価を頂き、ありがとうございます。日本の経営者の方々からもEUは危機を乗り越えられるとの信頼の声が厚く、大変心強く感じています。

ギリシャ危機以降、EUは「対応が遅すぎるし不十分である」という批判を受けました。しかし、危機が発生してから、状況が刻一刻と変化する中、非常に難しい努力を続けて、危機対応の仕組みを構築してきたのです。ヴァンロンプイ（注）欧州理事会議長の「難破船の中で新しい船を造るようだ」という言葉は、この間の状況を良く表しています。そして、このような危機管理の結果、危機前より統合されたルールや仕組みができたことは、大きな前進でした。一方で、失業率の上昇等の負の副産

物をもたらし、人々に心理的な緊張や打撃を与えたことも事実です。重要なことは、この両者をしっかりと認識し、問題を克服していくことだと思っています。

中曾 EUが抱える課題は簡単に解決できるものではないでしょう。しかし、私自身は、EUがいずれ真の統合に向かうと信じています。

大使のお話を伺いながら、実は日本も、否応なく、世界がグローバルに統合されていく過程の中にいるのだということを改めて意識しました。大使からお伺いした欧州統合に関するお話は、アジア太平洋地域の繁栄に向けて私たちに何ができるかを考える上で、非常に示唆に富む話です。若い人たちには、外の世界に飛び出し、自分たちの目でグローバル化の現実を確かめつつ、この世界を豊かで生かす役割を担って欲しいと願っています。

本日は、ありがとうございます。

（注）報道などでは「ファンロンパイ」等とも表記される。

日本銀行松山支店旧店舗

中村茂樹 日本銀行文書局技師

昭和七年（一九三二）、日本銀行は、「いで湯と城と文学の町」として知られ、四国商工業の中心地として栄える松山に、四国地方で最初の支店を開設しました。松山支店開業時の店舗は市の中心街に建つ古典様式の建物として、市民に長く親しまれてきました。第九回は、そんな松山支店の旧店舗を紹介します。

松山支店の開設

松山は、江戸期より伊予緋^{いよひ}（注1）の生産地として知られ、明治期に入つて織機の改良に伴いその生産量は増し、明治末期には日本の緋生産量の半分を占めるに至りました。こうした繊維産業の発展に伴い、松山は四国一の商工業都市として発展しました。

また、古くから瀬戸内海交通の拠点であった三津浜港と松山市内を結ぶ交通事情を改善するために、明治二十一年（一八八八）十月に四国で最初の鉄道、伊予鉄道^{いよてつ}（注2）が開通し、更に明治二十五年（一八九二）五月には新たに開港した高浜港まで伊予鉄道は延長

され、瀬戸内海交通の拠点としての松山の利便性は高まりました。

明治三十七年（一九〇四）から翌年にかけて行われた日露戦争中、松山にロシア兵俘虜収容所^{ふりよ}（注3）が置かれたのも海上交通の拠点としての利便性によるといわれています。松山市民と市内への外出が認められていたロシア兵俘虜の交流は、松山と道後温泉の国際化という副産物も生み、戦後の国際観光文化都市^{こくわんぶんかたし}（注4）指定につながっていったともいえます。

一方、松山の金融面をみると、中小銀行が乱立し、手形交換所も設置されていない状況にあり、商工業都市として発展する松山を支えるには必ずしも



写真上 新築設計時に作成した外観スケッチ・阪東義三画（昭和六年）
写真下 旧店舗の外観（日本銀行金融研究所アーカイブ所蔵）

十分ではありませんでした。また、当時松山は、広島支店の管轄下にありましたが、現金輸送をはじめとして松山の金融機関と広島支店との連絡は、天候に左右されやすい海上交通に頼らざるを得ないことから、地元からは日本銀行誘致の要望が強まっています。

一方、取引先の増加や業務拡大が見込まれた日本銀行内部でも、神戸支店（昭和二年（一九二七）開設）に次ぐ支店設置の候補地を選定している中で、商工業の発展度合い等から松山を最有力候補としていました。

そんな中、昭和二年（一九二七）八月の金融恐慌における県下銀行への日銀特融を機に、広島支店からの海上交

注1 伊予緋
愛媛県松山市で製造する緋（前もって染め分けた糸で織り上げた織物。日本三大緋のひとつ。緋は普段着の和服の反物として親しまれ、第二次世界大戦中は女性のモンペとして活用された。

注2 伊予鉄道
狭軌の軽便鉄道としては日本で初、民営鉄道としては日本で二番目の鉄道事業会社。明治期の車両は夏目漱石により紹介され「坊っちゃん列車」と呼ばれた。

注3 ロシア兵俘虜収容所
日露戦争のロシア兵俘虜収容所として日本で最初に松山に設置された。ロシア兵は政府の方針で自由外出など厚遇され、松山市民との間で国際文化交流が行われた。



写真1 長野宇平治
 明治26年(1893)帝国大学工科大学(現在の東京大学工学部)造家(建築)学科を卒業。わが国屈指の古典主義建築家として知られ、日本銀行本支店をはじめとする数多くの銀行建築を手掛けた。(生1867~没1937)(日本銀行金融研究所アーカイブ所蔵)

図1 松山支店の所在地



通依存の脱却の必要性を痛感した日本銀行は、昭和四年(一九二九)十二月に、四国地方では最初の松山支店の設置を決定しました。
 日本銀行は、支店開設に向けて松山市内三番町の一角に用地を取得し、支店建築計画が始まりました。(図1)

松山支店の建築

松山支店の設計は、長野宇平治(写真1)に委ねられました。

長野は、辰野金吾(注5)と共に、明治期の一連の日本銀行各支店の設計に携わった後、日本銀行技師を辞して設計事務所を設立していました。その後大正十二年(一九二三)の関東大震災を機に本店建物の震災復旧に携わり、昭和二年(一九二七)の本店増築工事を機に再び日本銀行臨時建築部(注6)の技師長に就きます。長野は、技師長として、本店増築の設計と並行して、臨時建築部筆頭技師の阪東義三(注7)を加えて松山支店の設計に取り組みました。

長野には、松山の地に特別な思いがあったと思われます。

夏目漱石(注8)と正岡子規(注9)が大学予備門(後の第一高等学校)の同期として深く親交したことは広く知られていますが、長野もまた、その同期の一人でした。大学予備門時代に、絵心のある長野が建築の道を決めたとき、同じく建築の道を志望していた漱石は、長野の実力を見て英文学の道を選んだともいわれています。また、長野は第五高等学校(現熊本大学)の英

語教師として赴任中の漱石をわざわざ訪ねており、二人の親交は相当に深かったと見られます。

ちなみに、漱石は、子規の故郷である松山に、愛媛県尋常中学校(旧制松山中学、現県立松山東高等学校)の英語教師として赴任します。その間、漱石の下宿家(現愚陀仏庵)に子規が同居し、俳句会を開いて互いに将来の日本文学を語り合いました。松山赴任中の体験は、後の漱石の小説『坊っちゃん』の下敷きとなります。

長野は、すでにこの世にいない同期の二人が築いた文学の町・松山に建物を設計することに深い縁を感じたことでしょう。

昭和六年(一九三一)四月に松山支店の新築設計が決定し、同年八月に清水組(現清水建設)の請負で着工されました。工事は予想以上の湧水のため基礎工事が難航したものの、現場の努力で予定工期を二十日間短縮して、同年(一九三二)九月に竣工、同年十一月一日に松山支店は営業を開始しました。

建築美を追求した古典様式建築

新築時の松山支店は、鉄筋コンクリ

注4/国際観光文化都市
 日本において、国際的な観光・温泉等の文化親善を促進する地域として法律により指定された都市で、現在松山のほか、京都、奈良、軽井沢など二都市が指定されている。

注5/辰野金吾

明治十二年(一八七九)工部大学校(現在の東京大学工学部)造家(建築)学科を第一回生として卒業。近代日本建築界の先覚者、日本銀行建築顧問。日本銀行本店本館のほか、東京駅など明治大正期の日本を代表する建築物を数多く手掛けた。(生一八五四没一九一九)

注6/日本銀行臨時建築部

日本銀行本店の一号館(三号館増築工事(昭和四年(一九二九)着手)昭和十三年(一九三三)完成)にあたり行内に組織された、長野宇平治技師長以下九〇名の技師・技手を擁した建築部。

注7/阪東義三

大正九年(一九二〇)東京帝国大学工学部(現在の東京大学工学部)建築学科卒業。日本銀行技師。長野宇平治の右腕として本店増築工事の設計・現場監督に携わった。(生一八九四没一九五二)

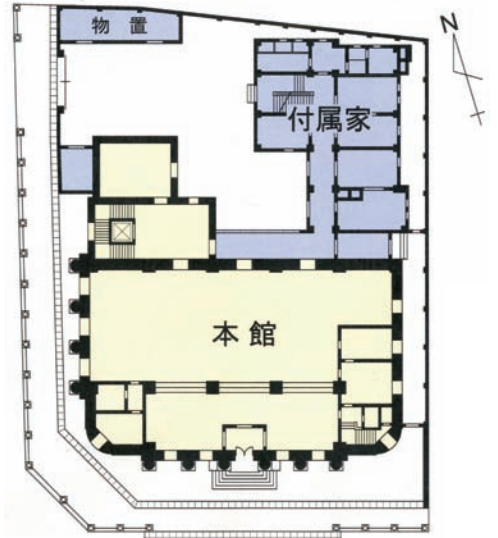
注8/夏目漱石

明治時代を代表する文学者のひとり。正岡子規と出会って俳句を学ぶ。俳号は愚陀仏。主な作品は、小説『吾輩は猫である』『坊っちゃん』『三四郎』ほか。(生一八六七没一九一六)

写真2 旧店舗の外観
(日本銀行金融研究所アーカイブ所蔵)



図2 旧店舗の平面図 (新築時)



造平屋の物置の三棟で構成され、本館と付属家は渡り廊下で接続されていた。(図2)

建物設備に目を向けると、金庫は本館の地階に設置されました。松山支店より前の支店では、金庫を敷地内の別棟に設置しており、松山支店が、本館内に金庫を取り込んだ最初の支店建物でした。

外観について言えば、屋根は、陸屋根の上にタイル張りとし、外装の腰壁部分と出入り口枠等には地元愛媛県産

リート造り地上二階地下一階の本館、食堂・宿直室等の配置された鉄筋コンクリート造り地上二階地下一階の付属家、および木

の大島石(注10)を使用し、その他の外壁部分等には大島石に模した人造石を貼付しています。

また、外観の特徴として、道路に面する南側正面と西側側面の外壁に並ぶ一〇本のイオニア式オーダー(注12)と、外壁頂部を飾るバラストレイド(注12)による典型的な古典様式を採用しながらも、必要最小限の装飾に抑えていることが挙げられます。(写真2)

多くの建築家により多様な建築様式の建築がみられた昭和初期に、松山の街並みに生まれた古典様式の建物は、子規の写生に通じる究極の建築美を示したともいえます。

付属施設の拡張

昭和二十年(一九四五)七月の松山空襲で市街の過半が焦土と化したなか、県庁、市役所と共に松山支店は被災を免れたことから、日本銀行は、戦後にいち早く業務に取り掛かることができました。

戦後、業務が拡大するなか、開設時からの敷地にはわずかな中庭があるだけで増築の余地がなかったことから、昭和二十二年(一九四七)三月、店舗東側に隣接する三九七坪(約一三〇〇㎡)の土地を購入し、当面は木造倉庫

と車庫を設置し、将来の店舗拡張に備えました。(図3)

次いで、翌二十三年(一九四八)七月、既存付属家の二階上部に木造の三階を増築し、更衣室に当てるなど逐次付属施設の拡張を図りました。戦後、社会情勢が落ち着く中、昭和二十五年(一九五〇)、ようやく戦中に店舗の外壁に施した迷彩(写真3)を除去清掃し、また金属抛出のため撤去された暖房設備の復旧工事を施しました。翌二十六年(一九五二)には、本館中庭に荷捌所を増築し、現金荷捌き作業の順便等の改善を図りました。

更に、昭和三十四年(一九五九)に同荷捌所を事務室に改造のうえ新たな

図3 旧店舗の配置図 (増築後)



写真3 戦時に施された迷彩塗装
(日本銀行金融研究所アーカイブ所蔵)

注9 正岡子規

明治時代を代表する文学者のひとり。俳句、短歌、新体詩など多方面な文芸活動により日本の近代文学に多大な影響を与えた(生一八六七-没一九〇二)

注10 大島石

愛媛県今治市沖の大島に産する花崗岩。石目が細かく、青みを帯びた石肌が特徴。「石の貴婦人」とも言われる。建材のほか、高級墓石材として使用。

注11 イオニア式オーダー

古代ギリシャ建築(古典様式)の列柱様式のひとつ。柱頭はかたつむりのような二つの渦巻き装飾に挟み込まれた受台の形をしている。

注12 バラストレイド

建物屋上等に設けられるバラスト(手摺子)をとりをささえるものをもつ高欄。

写真4 現在の松山支店



図4 現在の松山支店の配置図

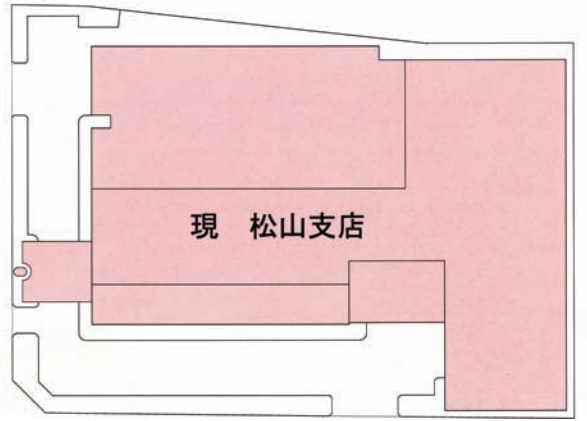


写真5 旧店舗の石膏模型 (1/50 縮尺)

荷捌所を中庭に新設し、昭和四十九年（一九七四）には隣接購入敷地の木造倉庫を取り壊して鉄骨軽量コンクリート造りの二階建ての付属家を新築することで、業務拡大による営業所の狭隘化^かに逐次対応していきました。

「いで湯と城と文学の町」に残る旧店舗の記憶

昭和五十年代を迎え、更に業務が拡大したことにより、既存金庫の収容力が飽和状態となり、また、本館建物も狭隘化と老朽化が著しくなるなど、業務に支障が出てきたことから、新店舗の建築が計画されることになりました。

日本においても、文化財や町並み保

存の必要性が強く求められ始めた時代になっていったことから、日本銀行では昭和初期の古典様式建物のひとつである旧店舗の解体の可否を検討しました。しかし、新店舗新築の先延ばしや代替地への移転新築は、老朽化対応と取引先の利便性を考慮すると難しく、現地建て替えしか選択肢はありませんでした。

昭和五十五年（一九八〇）九月、市民に惜しまれながらも、新店舗に向けて一期工事が着手され、仮設事務棟の設置など準備工事を経て、昭和五十七年（一九八二）十二月に旧店舗は解体されました。その跡地に二期工事として新店舗建設が開始され、昭和五十九年（一九八四）二月に完成しました。写

写真6 旧店舗の営業場（日本銀行金融研究所アーカイブ所蔵）



写真7 現店舗の営業場

真4、図4

松山市民から長く親しまれてきた旧店舗の解体に先立ち、市民への一般見学が行われたほか、旧店舗の記憶を後世に残すために石膏模型を松山市立子規記念博物館^{注13}に寄贈しました。（写真5、現在は松山支店内に展示）

また、新店舗には、営業場の天井に旧店舗の格天井^{こうてんじょう}を模した照明器具を設置したほか（写真6、7）、営業場ロビー上部に旧店舗ロビーの持ち送り金物（写真8、注14）を再利用するなど、旧店舗の記憶が継承されています。

松山支店がこれからもますます地元^{じよん}に密着した活動を続け、「いで湯と城と文学の町」松山の街並みに建つ新店舗が旧店舗と同様に末永く親しまれていくことを期待します。

写真8 持ち送り金物
（現店舗の営業場ロビー上部）



注13 松山市立子規記念博物館
俳人正岡子規の世界を通して松山の歴史と文学を紹介する文学系博物館。昭和五十六年（一九八二）四月に開館。

注14 持ち送り
壁・柱から水平に突出させて庇・梁などの上部の荷重を支持する部材。

日本の金融仲介機能の向上を支える

私たちの日常生活にとって「金融システムの安定」は重要です。お金の貸し借りや受け払いを安心して行うことができないと、社会全体が混乱しかねません。日本銀行は、金融システムの安定を確保し、その強化を図るために、個別金融機関を対象に立入調査する調査や、各種経営資料の分析などを行うオフサイトモニタリングに加え、「金融高度化センター」で各種セミナーの開催や論文の公表などの活動を行っています。

今回は、金融高度化センターの具体的な仕事を紹介しましょう。同センターは日銀金融機構局内に設置されており、考査とは一線を画したアプローチで、金融機関の多様な取り組みを支援しています。同センターの方々に詳しく聞きました。

金融機関にとって親しみやすい金融機構局の「第三のチャネル」

「金融高度化センター」は、日銀の金融機構局内に設けられた比較的新しい組織です。設立は二〇〇五年七月。同年四月には、普通預金に関してもペイオフ（払い戻しの保証額を元本一〇〇〇万円と利子までとする制度）が解禁されるなど、日本の金融界が金融危機から「平常に戻った」時期でした。

金融高度化センターの副センター長兼企画グループ長の山口省藏（しょうぞう）さんは「金融界が平常化してきたことも踏まえ、日銀が『危機管理重視』から『公正な競争を通じた金融仲介機能の高度化を支援する』方向へ政策運営の

舵を切り替えたことが、センター設立の背景にありました」と言います。

「日銀が各金融機関の取り組みを支援する部門として、従来の考査とオフサイトモニタリングに次ぐ『第三のチャネル』にセンターは位置づけられました」

時代とともに、金融技術やリスク管理の手法が高度化していく中で、金融機関の金融仲介機能を向上させる。それが金融高度化センターの最大の役割です。

従来から日銀は、各金融機関への考査とオフサイトモニタリングを通じて経営実態やリスクを把握し、必要に応じて改善を促すことで、金融機関がより有効に金融仲介機能を発揮できるように支援してきました。そうした



大規模セミナーの参加者は数百人に上る

考査やオフサイトモニタリングの取り組みと、「第三のチャネル」に位置づけられる同センターでの取り組みに何か違いがあるのでしようか。

山口さんは「考査もオフサイトモニタリングも、また金融高度化センターも目指すところは一緒だと思っています。金融機関の金融仲介機能の向上は、日本の金融にプラスになり、ひいては金融システムの安定にもつながります」と前置きしたうえで、こう説明します。

「金融高度化センターが金融機構局の他のチャネルと違うのは、金融機関へのアプローチの仕方です。考査とオフサイトモニタリングへの協力は、日銀と取引する金融機関の契約上の義務です。金融機関にとっては『検査される』『監視される』という印象が拭えないかもしれません。一方、センターの場合は、



金融機関にセミナー参加を呼び掛け、そこでの議論やコミュニケーションを通じて金融仲介機能の強化を図ります。センターは金融機関には『親しみやすいチャネル』に映るのではないのでしょうか。私たちスタッフも、金融機関が悩んでいる課題等について『一緒に考える』という姿勢で業務に当たっています」

日銀の取引先金融機関を対象に 数百人規模で開催する高度化セミナー

金融高度化センターのスタッフは、二〇一四年七月末現在で二一人。センター長（一人）のほか、企画グループ（六人）と研修グループ（四人）に分かれています。

このうち、企画グループは、金融機関の金融仲介機能の強化・支援に携わっています。具体的には、先進的な金融技術やリスク管理手法について調査・研究し、論文として公表するほか、金融機関からの個別相談に対応したり、全国の金融機関を対象に無料セミナー

を実施したりしています。

「主催セミナーを続ける中央銀行の取り組みは世界でも稀でしょう。金融高度化センターの企画・運営で日銀のセミナーを実施し、取り上げるテーマの中に日銀として伝えたい意図も含めるようにしています」（山口さん）

セミナーには、①日銀の取引先金融機関を対象に首都圏で開催する大規模セミナー、②全国各地に出向いて開催する地域セミナー、③金融の専門家や実務家を集め、日銀本店で議論を深めるワークショップ——の三種類があります。それぞれでテーマなどがすみ分けされており、金融高度化センターの役割である「金融機関の金融仲介機能強化支援」を総合的に展開する工夫がされています。

五〇〇以上ある日銀の取引先に参加を募る大規模セミナーには、毎回、全国の金融機関から三〇〇〜六〇〇人が集まります。二〇〇五年九月九日の第一回からはじまり、すでに一六回のセミナー開催を数えますが、山口さんによると、「テーマは柔軟に変えている」のだそうです。

「当初はリスク管理の高度化に関するテーマが中心でした。しかし、最近では、金融機関の融資手法や顧客支援などに関するテーマも数多く取り上げています。情報セキュリティや災害時の業務継続といったリスク管理の高度化の動きもフォローしながら、その時々で金融機関が関心を寄せたり悩んだりし

ている課題等もテーマに選んできました。柔軟な企画・運営が大規模セミナーの特徴です」
たとえば、二〇一一年十二月二日に開催した大規模セミナーでは、A B L（動産・債権担保融資）の活用を取り上げました。A B Lは、融資先の在庫・機械や売掛債権等を担保に融資する仕組みです。不動産担保や個人保証に過度に依存しない融資手法としてA B Lが注目されはじめた時期に、タイムリよくセミナーで取り上げると、会場は大盛況。終了後のアンケートでは、「イメージが湧いた」「当行でもA B Lをやってみたい」といった回答が多く寄せられ、三〇〇〇億円程度だったA B Lの市場はこのセミナーの効果もあってその後拡大し、現在では約一兆円に達したと言います。

また、山口さんは「セミナー参加者へのアプローチも工夫している」と言います。

「当初のセミナーでは、講師は全員、日銀の職員が務めました。しかし、私たちは金融の実務に日々従事しているわけではなく、現場の体験を通じて話すことができないので、参加者が共感を持って受け止めてくれないこともあります。そこで、現在では金融機関の実務担当者にも講師をお願いし、成功や失敗の事例をいろいろ話していただいています」

数々の苦労や失敗もしたけれど、最後は皆で力を合わせて乗り越えられた——金融という仕事への情熱に満ちた実務担当者の体験談

も多く、セミナーの参加者たちからは「大変感動し、参考になった」との声が寄せられるそうです。「私たちの仕事で感動したという声に私は感動しました」と山口さんは言います。

**全国主要都市で開催する
地域セミナーと専門家・実務家で
議論するワークショップ**

地域セミナーも、大規模セミナーと同様に、日銀の取引先金融機関を対象に参加を募っています。大きな目的は、リスク管理の基本的な知識を各地の金融機関に広めることです。金融高度化センターのスタッフらが札幌から福岡まで全国主要都市に向き、二〇〇五年九月を皮切りに、現在まで延べ七〇回以上を

開催しました。東京の日銀本店で開催するときは申し込みが殺到し、約一五〇人の定員が受付開始から二〇分で埋まることもあります（なお、セミナーへの参加受付は、主に日銀の考查オンラインを通じて行っています）。同センター企画役の確井茂樹（つぎい しげき）さんは二〇〇七年二月から主に地域セミナーで講師を務め、これまで延べ約一万人のセミナー参加者の前で話をしてきました。その内容について、こう振り返ります。

「リスク管理の基本から、応用、最新知識まで含まれる、実践的・実務的な内容に、年々進化していると思います。セミナー後のアンケート結果の反映や、金融機関がリスク管理や内部監査で何に悩んでいるか、長期間のニーズ調査を行うなどとして、絶えずブラッシュアップしてきました。また、考查やオフサイトモニタリングの担当ともすり合わせを行い、『これは金融機関の役に立つ』という内容を盛り込んでいます」

地域セミナーの講師は確井さんのほか、地域金融機関の実務担当者が務めることもあります。確井さんによると、「大規模セミナーをきっかけに、内部監査の取り組みを強化した地方銀行のご担当者に講師をお願いしたこともある」と言います。

「大規模セミナーに参加したある地方銀行の部長は『目からウロコが落ちました』との感想を述べていました。数年後、私がその地



実務家、学識経験者と議論を行うワークショップ

方銀行を訪ねると、高度化への取り組みが着実に進んでいました。そこで、どのように実践していったのかということについて、地域セミナーで事例紹介をいただいたところ、大きな反響がありました」

ワークショップでは、金融機関の実務家や大学の研究者が東京の日銀本店に集まり、リスク管理の先端的な領域について議論を深めています。オペレーショナルリスクを主なテーマにした二〇〇六年七月のワークショップ以来、開催は現在まで二〇回以上。企画・運営を担当する同センター企画役の磯貝孝（いそがいたかし）さんは「リスク管理の高度化に関する我々の調査・研究を基にワークショップを企画し、議論の参加メンバーは幅広い分野から人選します」と言います。

「競合関係にある専門家・実務家が一堂に



全国主要都市で開催している地域セミナー
（東京・日銀本店での開催の様子）

会し、最先端の研究や取り組みなどを公開し合う場面もあります。『日本の金融機能の向上のために』という目的意識がメンバー間に共有されているからできる貴重な議論です。そのリード役を金融高度化センターが担っている、ということです」

ワークショップの議論を踏まえてリスク管理に関する論文も金融高度化センターで作成します。その内容を金融界に広く還元するため、日銀のホームページ上で公開するほか、学術論文に投稿したり国際会議で発表したりしています。

「おもてなし」の向上に力を合わせ 日本銀行職員の機能向上も支える

大規模セミナー、地域セミナー、ワークショップを合わせると、金融高度化センターは、昨年二〇〇〇人を集客している計算になります。延べ二〇〇〇人を集客している計算になります。これだけの規模のセミナーを毎年開催し続けることは、大変な仕事です。それにもかかわらず、セミナーの集客から当日の会場運営まで、すべて同センターのスタッフが担い、イベント業者などの手は借りていません。そしてセミナー運営の評判は、上々のことです。

各セミナーの案内業務をはじめ、手配全般を担当する同センターの古川真佐子さんはこう話します。

「セミナー終了の翌日の午前中は、運営に携わった全員が顔をそろえて反省会をします。それぞれが意見を述べ合い、大事な内容を反映しながら独自のチェックリストも改訂していきます。私たちはホテルマンのようなプロのおもてなしはできないけれど、参加者に心地良いセミナーをつくるためにはどうしたらいいかということもいつも考えています」

金融高度化センターでは、こうしたスタッフに支えられた外部向けのセミナーのほか、金融機構局の職員に対する研修も企画・実施しています。日銀の職員全体の研修は総務人事務局が実施し、また各局においてもそれぞれの業務に即した研修が行われています。その中で、現在のところ唯一、金融機構局だけが同局の職員（および支店担当者）向けの独立した研修組織を有しています。

同センターの研修グループで職員研修の企画・実施を担う新本俊一（しんほんしゅんいち）さんによると、「対象も開催頻度もさまざまですが、年間で延べ五〇〇回程度の研修を実施している」とのことです。

「最も多いのが、コンプライアンス・情報セキュリティ研修です。これは金融機構局に転入者がある都度、必ず行っています。当局の職員は金融機関との間で、機密性の高い情報交換やヒアリングなどの業務を担います。もちろん、日銀のどの部署で仕事をする



金融機構局への転入者を対象とした基礎研修

場合も情報セキュリティの意識は重要ですが、金融機構局では、より一層、厳格かつ慎重に業務上の情報等を取り扱う必要があると言えます。そこで、それを徹底させる研修を繰り返し行っているのです。ちなみに理解度テストも実施し、それに合格しない職員は研修を再受講してもらいます」

また、金融機構局で考査やオフサイトモニタリングを担当する場合、若手職員であっても金融機関を調べる立場に立ったり、課題を見つけないければなりません。そのため、研修も、同センターで提供しています。

金融高度化センターは、セミナー、ワークショップで金融機関の金融仲介機能の向上を支えるとともに、研修を通じて金融機構局職員の高度化を進めるセンターであることが分かりました。



日本銀行のレポートから

日本銀行では、年4回（1月、4月、7月、10月）、全国32支店の支店長などが本店に集まり、総裁以下全役員と「支店長会議」を開きます。支店長会議の場では、全国の支店長などが、経済指標の分析や企業等への面談調査等を通じて収集した情報をもとに、各地域の経済金融動向等について報告・討議します。こうした分析・情報に基づく各支店などからの報告を支店長会議にあわせて集約したものが「地域経済報告」（さくらレポート）です。全国を9地域に分け、景気情勢に関する報告を集約した「地域からみた景気情勢」と、その時々々のタイムリーなトピックを採り上げ企業等の生の声を収集・整理した「地域の視点」、全国九地域の金融経済概況、参考計表で構成されています。

*全文は日本銀行ホームページに掲載されています。http://www.boj.or.jp/research/brp/rer/index.htm/

「地域経済報告」（さくらレポート）

— 二〇一四年七月「抜粋」 —

I. 地域からみた景気情勢

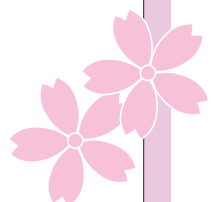
各地の景気情勢を前回（一四年四月）と比較すると、全地域が、景気の改善度合いに関する基調的な判断に変化はないとしている。

各地域からは、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているものの、基調的には、「回復を続けている」、「緩やかに回復している」等の報告があった。この背景としては、国内需要が堅調に推移し、生産が緩やかな増加基調を続ける中で、雇用・所得環境も改善していることが挙げられている。

公共投資は、東北から、「大幅に増加している」、三地域（北海道、東海、中国）から、「増加している」等の報告があった。また、五地域（北陸、関東甲信越、近畿、四国、

	【14/4月判断】	前回との比較	【14/7月判断】
北海道	消費税率引き上げの影響による振れを伴いつつも、基調的には緩やかに回復している	➡	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動が一部みられているが、基調的には緩やかに回復している
東北	消費税率引き上げの影響による振れを伴いつつも、基調的には回復を続けている	➡	消費税率引き上げの影響による反動がみられるものの、基調的には回復を続けている
北陸	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要とその反動の影響を受けつつも、基調的には緩やかに回復している	➡	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響を受けつつも、基調的には緩やかに回復している
関東甲信越	消費税率引き上げの影響による振れを伴いつつも、基調的には緩やかな回復を続けている	➡	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているが、基調的には緩やかな回復を続けている
東海	足もと消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動もみられているが、基調としては回復を続けている	➡	足もと消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動もみられているが、基調としては回復を続けている
近畿	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているが、基調としては緩やかに回復している	➡	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているが、基調としては緩やかに回復している
中国	消費税率引き上げの影響による振れを伴いつつも、基調としては緩やかに回復している	➡	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているものの、基調としては緩やかに回復している
四国	消費税率引き上げの影響による振れを伴いつつも、基調的には緩やかな回復を続けている	➡	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているが、基調的には緩やかな回復を続けている
九州・沖縄	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要とその反動の影響を受けつつも、基調的には緩やかに回復している	➡	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減がみられているものの、基調的には緩やかに回復している

（注）前回との比較の「➡」、「➤」は、前回判断に比較して景気の改善度合いまたは悪化度合いが変化したことを示す（例えば、改善度合いの強まりまたは悪化度合いの弱まりは、「➡」）。なお、前回に比較し景気の改善・悪化度合いが変化しなかった場合は、「➡」となる。



九州・沖縄）からは、「高水準で推移している」との報告があった。

設備投資は、北海道、東海から、「一段と増加している」、四地域（東北、北陸、関東甲信越、近畿）から、「増加している」等、三地域（中国、四国、九州・沖縄）から、「持ち直している」等の報告があった。この間、企業の業況感については、「非製造業を中心に悪化した」、「底堅く推移している」等の報告があった。

個人消費は、雇用・所得環境が改善していること等を背景に、北海道から、「緩やかに回復している」、四地域（北陸、東海、四国、九州・沖縄）から、「緩やかに持ち直している」、「持ち直している」等の報告があったほか、四地域（東北、関東甲信越、近畿、中国）から、「底堅く推移している」等の報告があった。この間、多くの地域から、耐久消費財（乗用車、家電等）や一部の高額品を中心に、「消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられている」等の報告があったほか、「反動減が縮小してきている」等の報告もあった。

大型小売店販売額をみると、百貨店、スーパーとも、多くの地域から、

「駆け込み需要の反動がみられている」、「持ち直している」、「底堅く推移している」等の報告があった。

乗用車販売は、「駆け込み需要の反動がみられている」、「底堅く推移している」等の報告があった。

家電販売は、「駆け込み需要の反動がみられている」、「持ち直している」等の報告があった。

旅行関連需要は、多くの地域から、「堅調に推移している」等の報告があった。この間、北海道、九州・沖縄から、外国人観光客が増加しているとの報告があった。

住宅投資は、消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動がみられているものの、三地域（東北、四国、九州・沖縄）から、「高水準で推移している」等の報告があった。また、四地域（関東甲信越、東海、近畿、中国）からは、「基調的には底堅く推移している」等の報告があったほか、北陸からは「下げ止まりつつある」との報告があった。一方、北海道からは、「減少しつつある」との報告があった。

生産（鉱工業生産）は、消費税率引き上げの反動の影響を受けつつも、四地域（北海道、東北、関東甲信越、

中国）から、「緩やかな増加基調にある」等の報告があったほか、三地域（北陸、東海、近畿）からは、「高水準で推移している」、「堅調に推移している」とみられる」等の報告があった。また、四国から、「緩やかに持ち直している」との報告があったほか、九州・沖縄からは、「全体としては横ばい圏内で推移している。この間、一部では増加に向けた動きもみられている」との報告があった。

主な業種別の基調的な動きをみると、輸送機械、電気機械は、「高めの水準で横ばい圏内の動きが続いている」等の報告があったほか、化学も、「高めの水準を維持している」等の報告があった。はん用・生産用・業務用機械については、「増加している」、「持ち直している」等の報告があったほか、電子部品・デバイスも、「持ち直している」等の報告があった。鉄鋼、金属製品、窯業・土石は、「高操業を続けている」、「横ばい圏内の動きとなっている」等の報告があった。

雇用・所得動向は、多くの地域から、「改善している」等の報告があった。雇用情勢については、多くの地域から、「労働需給は着実な改善を続け

ている」等の報告があった。雇用者所得についても、多くの地域から、「持ち直している」、「改善の動きが明確化してきている」等の報告があった。

II. 地域の視点

「各地域における

消費税率引き上げ後の家計の支出動向と企業の対応」

1. 消費税率引き上げ後の家計の支出動向

(1) 消費関連企業からみた

最近の家計の支出動向

消費税率引き上げ後の家計の支出動向をみると、一部に実質所得の下に伴う節約の動きがみられるものの、雇用・所得環境の改善や企業の販売施策の奏功等を背景に、全体としては底堅く推移している。この間、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減の影響は、次第に和らいできているとの声が多く、地域から聞かれている。

(2) 基調的な消費の地合いに対する企業の見方

各地域の消費関連企業の多くは、消費税率引き上げ後も基調的な消費の地合いは堅調とみている。この点、

趣味・嗜好性の強い商品・サービス（選択的支出）に加え、日常的な支出項目（基礎的支出）についても、安さより品質・付加価値、利便性等を重視する支出行動が広がっており、客単価が上昇傾向にあるとの指摘が多く聞かれている。

この背景として、わが国の景気が緩やかな回復が続いているも、幅広い地域・属性で雇用・所得環境が改善し、先行きの所得改善期待も高まっていることが挙げられている。やや子細にみると、主婦層、若年層等の雇用機会が増加し、時間外給与の増加、賞与増額、ベア、時給上昇等を通じて正社員・非正規社員の賃金が増加傾向にあること等を受けて、消費税率引き上げ後も、幅広い属性で消費者の前向きな支出行動がみられている。緩和的な金融環境が続いていることも、こうした動きを後押ししているとの指摘が聞かれる。

このほか、アクティブシニア層や外国人観光客の需要が引き続き好調で、反動減の抑制や消費下支えに寄与しているとの声も多く聞かれている。

一方で、消費税や光熱費等の家計負担の増加を受けて、品質・機能面で差がない食料品や日用品等については、より低価格なディスカウントストアやドラッグストア等での購入にシフトする動きや、不要不急の支出を抑制する動きが一部にみられるなど、以前にも増して消費にメリハリを効かせているとの指摘が聞かれている。また、実質所得が低下した消費者のマインド悪化を懸念する声や、実質所得低下の影響がラグを伴って顕在化する可能性を指摘する声も聞かれている。

この間、家計の住宅に対する支出スタンスは、雇用・所得環境の改善に加え、政府の住宅取得支援策や緩和的な金融環境に支えられ、消費税率引き上げ後も底堅さを維持しているとの声が大勢を占めている。もともと、低価格の注文住宅では需要の先食いによる反動減の長期化懸念、都市部の分譲住宅では価格上昇や好立地物件の供給減少等を背景とした慎重化の動きも指摘されている。

2. 企業の対応

(1) 販売施策

こうした中、消費税率引き上げ前

後の企業の販売施策をみると、セーラーや催事の強化・開催時期見直し等の短期的な反動減対策に加え、消費の底堅さや消費者ニーズの変化を踏まえた中長期的な視点での需要喚起策や戦略が目立っている。具体的には、①価格よりも品質や機能等を重視した新商品の積極投入や商品ライオンナップの拡充（高品質・高価格帯の品揃え充実）、②新たな付加価値を加えた店舗リニューアル、③オムニチャネル（ネットと実店舗販売等の融合）への取り組み、④人件費引き上げ等を伴う接客・サービス品質向上など、商品・サービスの内容や販売チャネルに付加価値やコストを加えることで消費者を惹き付け、需要を引き出すための取り組みが進展している。

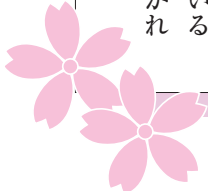
(2) 価格設定行動

企業の価格設定スタンスをみると、消費の底堅さを踏まえて、採算改善を意識した価格改定に踏み切る動きが広がっており、販売価格を改定した企業の多くでは、その後の売上が減速していないことから、新たな価格体系が消費者に受け入れられていると評価している。まず、消費税率

引き上げ分については、その必要性に対する消費者の理解進展や消費税転嫁対策特別措置法で「消費税還元セーラー」の禁止や外税表示の容認等がなされたこともあって、大半の先が販売価格に転嫁している。加えて、既往のコスト（原材料費、人件費、光熱費等）増加分についても、業績好調な小売や飲食・宿泊サービスを中心に、商品・サービス内容の見直し等を伴いながら販売価格に転嫁する動きがみられている。

今後、他社の動向を様子見していた企業や既往のコスト増加分を十分に価格転嫁しきれていない企業を中心に、段階的な値上げや高価格帯の商品・サービスメニュー拡充等を推進していくとの声が相応に聞かれており、当面、価格引き上げの動きは続いていくものとみられる。

一方、競合の激しい小売（スーパー、ドラッグストア、ディスカウントストア等）では、PB商品や集客力のある売れ筋商品に限定して、価格を据え置く（または値下げする）動きもみられる。生活必需品を中心にコスト増加分の価格転嫁が遅れているとか、値上げは困難との声も聞かれ



ており、消費の地合いが弱含む場合には、これらの動きが広がる可能性もある。

3. 先行きの展望

先行きの個人消費については、雇用・所得環境の改善が続くもとで、夏場にかけて駆け込み需要の反動の影響が減衰し、基調的には底堅く推移するものとみられる。こうした中、先行きの景気や所得の回復期待もあって、メリハリを伴いつつも家計の支出スタンスが前向きになり、品質や付加価値に対するニーズが一段と強まっているとの声が聞かれる。これに対し消費関連企業では、今回の消費税率引き上げもひとつの契機となつて、全体としてみれば、コスト削減による低価格路線から、高付加価値化・高単価路線に転換し、コストと付加価値に見合った販売価格を設定する動きが広がりつつある。経済・物価の好循環を進展させていくうえで、今後も企業努力による商品力やサービスレベルの向上等を通じて、新たな需要を喚起していくことが期待される。

〈需要項目等〉

	公共投資	設備投資	個人消費	住宅投資	生産	雇用・所得
北海道	増加している	景気が緩やかに回復する中、売上や収益が改善するもとで、一段と増加している	雇用・所得環境等の改善を背景に、緩やかに回復している	減少しつつある	国内外の堅調な需要を背景に、増加している	雇用・所得情勢をみると、労働需給は着実に改善している。雇用者所得は回復している
東北	震災復旧関連工事を主体に、大幅に増加している	増加している	消費税率引き上げ後の反動がみられているものの、底堅く推移している	消費税率引き上げの影響による反動を伴いつつも、災害公営住宅の建設等から、高水準で推移している	消費税率引き上げの影響による反動を受けつつも、基調としては緩やかに増加している	雇用・所得環境は、改善している
北陸	高水準で推移している	製造業を中心に増加している	基調として緩やかに持ち直している	駆け込み需要の反動がみられるものの、下げ止まりつつある	高水準で推移している	雇用・所得環境は、改善している
関東甲信越	高水準で推移している	増加基調にある	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているが、基調的には底堅く推移している	消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動がみられているが、基調的には底堅く推移している	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響を受けつつも、基調的には緩やかな増加を続けている	雇用・所得情勢は、労働需給が着実な改善を続けているもとで、雇用者所得も改善している
東海	増加している	一段と増加している	足もと消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動もみられているが、基調としては、雇用・所得環境が改善する中で、持ち直している	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動もみられているものの、基調としては底堅く推移している	足もと消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動に対応した減産の動きもみられているが、基調としては高めの水準で横ばい圏内の動きが続いている	雇用・所得情勢は、改善している
近畿	高水準で推移している	増加している	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているが、雇用・所得環境などが改善するもとで、基調としては堅調に推移しているとみられる	基調としては堅調に推移しているとみられる。もっとも、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動が引き続きみられている	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動から減産の動きもみられるが、基調としては堅調に推移しているとみられる	雇用情勢をみると、労働需給は改善の動きが強まっている。こうしたもとで、雇用者所得も改善の動きが明確化してきている
中国	増加傾向にある	持ち直している	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているものの、底堅く推移している	横ばい圏内で推移している	緩やかな増加基調にある	雇用情勢は、着実に改善している。雇用者所得は、持ち直している
四国	高水準で推移している	持ち直している	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているが、基調的には緩やかに持ち直している	高水準で推移している	緩やかに持ち直している	雇用・所得情勢をみると、労働需給は改善しており、雇用者所得も緩やかに持ち直している
九州・沖縄	高水準で推移している	着実に持ち直している	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減がみられているものの、消費者マインドに加えて雇用・所得環境の改善もあって、持ち直しつつある	増勢が一服している	全体としては横ばい圏内で推移している。この間、一部では増加に向けた動きもみられている	雇用・所得情勢をみると、労働需給は改善しており、雇用者所得にも持ち直しの動きがみられている

企業向けサービス価格指数・ 二〇一〇年基準指数の 公表を開始

▼日本銀行は、企業向けサービス価格指数の五年に一度の基準改定を実施し、本年六月二十五日から二〇一〇年基準指数の公表を開始しました。また、英語名称をCSPRからSPPRに変更しました。

▼今回の基準改定では、昨年五月に基本方針を公表し、皆様からお寄せいただいたご意見も踏まえまして、本年六月十七日に「企業向けサービス価格指数・二〇一〇年基準改定結果」を公表しました。その中では、基準改定のポイントを、①新サービスの取り込み、②既存品目の見直し、③指数体系と統計名称の一部変更、④統計ユーザーの利便性向上を企図した対応、に整理した上で、指数動向をご説明しています。

▼日本銀行では、統計ユーザーの皆様にとってより使いやすい統計を提供するため、これからも努力を続けてまいります。

※詳細は日本銀行HPをご覧ください。
http://www.boj.or.jp/research/brp/ron_2014/ron140617a.htm/

リニューアル工事に伴う 貨幣博物館の一時休館について

▼貨幣博物館はリニューアル工事のため、本年二〇一四年十二月二十九日から一時休館することとなりました。そして、二〇一五年十一月頃(予定)に新たな博物館として生まれ変わります。

▼リニューアルのポイントは三つ。貨幣史における新たな研究成果を反映させた「お金の歴史の博物館」、資料の見せ方や解説を工夫した「分かりやすく楽しく学べる博物館」、デザインやレイアウトを一新した「親しみやすい博物館」です。

▼リニューアルオープンに関する情報は、貨幣博物館HPでお知らせいたします。

▼なお十二月二十八日(日)までの間、年内は土曜日・日曜日・祝日を含め、月曜日以外原則として開館します。多数の皆様の来館をお待ちしております。

△休館期間▼
二〇一四年十二月二十九日(月)～
二〇一五年十一月頃(予定)

△年内の開館予定▼
【開館時間】

九時三十分～十六時三十分
(入館は十六時まで)

【休館日】

月曜日(ただし、祝日は開館)

※最新の休館、リニューアル関連情報は貨幣博物館HPをご覧ください。

<http://www.imes.boj.or.jp/cm/>

【入館料】無料

【所在地】

東京都中央区日本橋本石町

一―三―一 (日本銀行分館内)

【お問い合わせ先】

〇三―三―七―三〇三七

松本支店は開設二〇〇周年 を迎えました

▼日本銀行松本支店では、支店開設一〇〇周年(一九一四年七月一日開設)を記念して、七月二十二日(火)に支店と隣接する松本城公園の一角で菅合昭松本市長と日本銀行林新一郎松本支店長による桜の記念植樹を行いました。当日は、好天に恵まれ、桜のように一層地域に根差していくことを支店職員一同で誓いました。

▼このほか、松本支店では一〇〇周年に関する記念事業として、次の時



次の100年を華やかに彩るシンボルとなることを願って

代を担う子どもたちのために松本市内の一部小中学校や県内各地の商工会議所と共催で日本銀行の仕事を説明する出前授業・講座を実施しているほか、松本市のマスコトキヤラクター「アルプちゃん」を取り込んだ支店職員手製のオリジナルしおりや、支店の歴史等を記した記念冊子、特設ホームページを作成しました。記念冊子やオリジナルしおりは地元のマスコミに取り上げられ、県民の方々からも問い合わせが多数寄せられています。

▼松本支店は、これからも長野県における中央銀行の拠点として地域経済の発展に貢献していきたいと考えています。

中曽副総裁が被災地訪問

七月二十七日(日)～二十八日(月)

▼日本銀行の中曽宏副総裁は、七月二十七日から二十八日にかけて、東日本大震災により甚大な被害を受けた岩手県宮古市・釜石市・盛岡市、宮城県仙台市を訪れました。

▼中曽副総裁は、各地で地元経済界や行政関係者の方々と意見交換を行ったほか、復興状況を直接確認しました。副総裁は、「甚大な被害からの復旧・復興に向けて関係者の方々が一貫して示されてきた強い意志とたゆまぬ努力に大変勇気付けられた。今後とも復興に向けて中央銀行として最大限の支援を続けたい」と述べました。

「日銀夏休み子ども特別見学会二〇一四」を開催

八月四日(月)～八月八日(金)

▼「日銀って何をしているところ?」そのようなお子様の好奇心にお応えするため、日本銀行本店では「日銀夏休み子ども特別見学会二〇一四」(協力:金融広報中央委員会)を開催しました。

▼日銀の仕事や金融・経済の仕組みについて知っていただくため、紹介ビデオを視聴していただいたほか、国の重要文化財に指定されている本店本館や実際に窓口業務を行っている新館営業場などの見学ツアーにご案内しました。

▼また、体験学習として、小学校四年生～中学生のお子様と保護者の方向けのプログラムでは、一億円の重さ体験、お札の偽造防止技術、お札の数え方を学んでいただきました。中学生向けのプログラムとしては、昨年初めて実施した「金融政策を決めるのは、君だ!」を今年も行いました。グループに分かれて架空の経済ニュースをもとに景気・物価とそれを踏まえた金融政策について議論し、最後には、実際の金融政策決定会台と同様に、議長が政策を提案、



八月四日には黒田総裁がサプライズで登場。体験学習中の子どもたちに声をかける場面も



議論の末、子ども政策委員が採択した金融政策は?

メンバーの多数決で決定しました。少々難しい課題でしたが、活発に意見が交わされ、参加者からは「金融政策がどんな風に決められているのか分かり、勉強になった」「これからはニュースなどを見て、景気などについて考えてみようと思った」との声が聞かれました。

▼こちらの見学会、次回の開催は春休み期間中を予定しております。どうぞご期待ください。

「にちぎん体験二〇一四」開催決定

十月二十七日(月)～十一月三日(月)

▼日本銀行本店(東京都中央区日本橋本石町)では、「にちぎん体験二〇一四」を今年も開催します。

①レクチャー付き見学ツアー(要予約)：国の重要文化財に指定されている本店本館(旧地下金庫な

ど)や新館営業場への見学ツアーに加え、日銀の仕事をテーマにレクチャーを行います。

②「二見学付き市民講座(要予約)」：日銀職員が講師を務め、お金をめぐる話題などをテーマにお話しします。また、旧地下金庫と旧営業場の見学にもご案内します。

③企画展(予約不要)：本店本館内の特設展示室にて、日銀の本店建築や業務などについて紹介します。

▼この機会に、ぜひ日本銀行にお越しください。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

「プログラムごとの開催日程」

①：十月二十七日(月)～三十一日(金)

②、③：十一月一日(土)～三日(月)

※詳しい内容や時間、予約方法などについては、日本銀行HPをご覧ください。

http://www.boj.or.jp/announcements/pr_events/index.htm/

【お問い合わせ先】

日本銀行情報サービス局
総務企画グループ

〇三―三二七―
二五六八



編集後記

■今回は、「古代ローマ帝国」を舞台に大ヒット作「テルマエ・ロマエ」を出したヤマザキマリ氏と、様々な困難を克服しながら統合を進めてきた「欧州連合(EU)」のH.D.シュヴァイスグート駐日大使(取材当時)にご登場頂いた。

一部の属州放棄でローマ市民の非難を浴びつつ、属州の部族との和解を進め、大ローマ帝国の繁栄の基礎を築いた皇帝ハドリアヌス。ヤマザキ氏は彼を「知性の皇帝」と呼ぶ。

そして、その同じ地域の人々が、現代において、2つの世界大戦、東西分裂とその崩壊、欧州債務問題など、様々な危機を乗り越えてEUを作り、通貨統合等を進めている。「危機克服に伴い前進する統合の面と、失業等負の副産物の両面をしっかりと認識し問題を解決していく」とのシュヴァイスグート大使の話は力強い。

この2つの動きに既視感を覚えつつ、それぞれの「統合」に要したであろう膨大なエネルギーと、それを支えている信念や危機感に思いを馳せざるを得ない。

今、奇しくも「国」や「民族」を巡り、世界各地で様々な紛争が拡大している。「危機の中から未来を創る」。そう願わざるを得ない。(丹治)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。
(http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<http://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2014年秋号
編集・発行人 丹治芳樹
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所
印刷 サンメッセ株式会社
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

*本誌の用紙は、環境・社会・経済のすべての側面に配慮した厳しい基準に従って適切に管理された森林からの木材を原料としていることを示す、FSC認証紙を使用しています。

「親子のためのおかね学習フェスタ」を全国四力所で開催しています

▼金融広報中央委員会(事務局:日本銀行情報サービス局内)は、おかねについて親子で楽しく学べる体験型イベント「親子のためのおかね学習フェスタ」を、全国四力所で開催しています。

▼本イベントでは、体験を通して欲しいものや必要なものの違いや、計画的におかねを使うことの大切さなどを学んでいただけます。

【プログラム】

おかねのおはなし会(注)、おかねの体験学習プログラム(注)、貯金箱作り、おかねクイズ、お札の秘密体験など。参加費無料。注:予約制・先着順。

【お申し込み・お問い合わせ】

親子のためのおかね学習フェスタ事務局:020-9661-6666(受付時間:平日10時~18時)
公式サイト:<http://www.festa2014.jp/>



【開催日程】

岐阜(八月十七日、開催済)
群馬(十月二十五日)
神奈川(十一月三十日)
宮崎(十二月二十日)



「おかねのおはなし会」
講師:いちのせかつみ氏
(FP/生活経済ジャーナリスト)

訂正

三十八号(六月二十五日発行)の「日本銀行のレポートから」に掲載された「金融システムレポート」二〇一四年四月」の一部に、誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

(三十一ページ)

図表8 金融活動指標の脚注

(誤) ※赤色:過熱方向(トレンドから1標準偏差を上回る状態)
/ 青色:停滞方向(トレンドから1標準偏差を下回る状態)
(正) ※赤色:過熱方向(トレンドを一定幅以上上回る状態)
/ 青色:停滞方向(トレンドを一定幅以上下回る状態)



TUIのジェット (大西洋の島にて)

旅行好きなドイツ人

ウアラオプ (Urlaub) というドイツ語は、ドイツ人にとって大切な言葉。その意味は「休暇」です。長期のバケーション、季節のホリデー、単発の有給休暇、いずれもウアラオプと呼びます。ドイツの平均的な有給休暇は30日。これはあくまで余暇のために使うものであり、病気の場合には別に病欠を利用します。皆有給休暇をきっちり消化しますし、会社は消化させないといけない義務を負っています。州によって違うのですが祝日は10日ほどあり、これを有給休暇と合わせると年間40日もの休みになります。日本人の感覚からすると羨ましい限りです。

さて、その長いウアラオプをどう使うか。誰に聞いても一番に返ってくる答えが旅行です。ドイツ人は旅行好きな国民で、最近中国に抜かれるまでは、年間海外旅行者数が世界一でした。人口8000万人の国で、海外旅行者延べ人数が7000万人。たくさんの人が海外旅行に出かけていきます。ちなみに日本の年間海外



冬はチロリアン・アルプスのスキーリゾートへ

旅行者数は1800万人。

ドイツ人旅行者の行き先は、スペイン、イタリア、ギリシャ、トルコなどが人気で、ドイツの寒くて暗い冬の時期には、スペインのマヨルカ島やカナリア諸島に脱出してきたドイツ人でリゾートホテルのプールが埋め尽くされます。航空券とパックになった格安ツアーが人気で、なかでもTUIという世界最大級の旅行会社は傘下に航空会社も抱えており、黄色地に赤のスマイルマークを尾翼に付けたジェット機が地中海中のリゾート地に向けて飛び立っています。

ドイツは森の国。国内旅行も盛んです。アウトバーンを走るとキャンピングカーやマウンテンバイクを積んだワゴン車をよく見かけます。広い国土を網の目のように覆ったアウトバーンで頻繁に長距離ドライブをするため、中古車市場では数年落ちなのに走行距離10万キロの車も珍しくはありません。今年、ワールドカップの優勝を旅行先のスポーツバーで観戦したドイツ人も多かったことでしょう。

(日本銀行フランクフルト事務所)

*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



高速道路の国境をドイツ側 (アウトバーン) に入ると一気に速度アップ



にちぎん